

成城大学 2025 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 4 日：国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔一〕

問一 ア 驚嘆 イ 研(ぎ) ウ 細心 エ 莊嚴 オ 介在 カ 模写

問二 ハ

問三 ロ

問四 ニ

問五 X 公的領域 Y 私的領域

問六 家族の領域

問七 イ

問八 ロ

問九 (解答例) 労働者の住宅は都市の中心から排除され、家庭が担っていた経済活動も奪われているということ。(44 字)

問十 ニ・ホ

〔二〕

問一 ア 侵害 イ 擁護 ウ 立脚 カ 撤回

問二 エ がんい オ ぶとう

問三 ハ

問四 d

問五 ロ

問六 ニ

問七 ロ

問八 Y 自己所有 Z 他者所有

問九 甲 (解答例) 死についての共同体の観念や習俗を表現する(20 字)

乙 (解答例) 死が他者へと共鳴する構造を示すもの(17 字)

問十 ニ

問十一 ニ・ヘ

■出題意図

〔一〕

ポリス（古代ギリシャにおける集落）とオイコス（古代ギリシャにおける家庭空間）との関係について考察したハンナ・アレントの考え方をもとに、山本理顕が都市の空間構成や社会のあり方について論じた文章を出題した。古代ギリシャから 18 世紀までは都市構成の基礎単位であった家族が、19 世紀に入って国家経済の基礎となること、さらにそうした変化が住空間の変化とも連動することなど、本文の内容を論理的かつ総合的に読み取る力を測る。

〔二〕

身体の自己所有という概念の再考を起点に自由そのものについての再考を促す、大澤真幸の文章を出題した。身体の自己所有と自由という概念との関係や、身体の自己所有が他者所有に裏返る構造を持っていることなど、著者が展開する論理とその上で提示される問題点を的確に読み取ることのできる力を測る。

成城大学 2025 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 5 日：国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。2025 A 入試
模範解答

〔一〕

問一 ア 免 (れない) イ 侵犯 ウ 趣向 エ 無為 キ 享受

問二 オ ゆうかん カ たいせい ク さかのぼ (って)

問三 イ

問四 A ホ B ロ C ト D へ

問五 (解答例) 無目的な働きを生じさせる (12 字)

問六 ハ

問七 X へ Y イ Z ニ

問八 ハ

問九 ハ

問十 ハ

問十一 X (解答例) 原始生命の発露 (7 字)

Y (解答例) 文化や宗教という高い次元での「遊び」がそこから展開してくるの
を妨げる (34 字)

問十二 ロ・ホ

〔二〕

問一 ロ

問二 仙人

問三 a ロ b イ c ニ

問四 ニ

問五 ニ

問六 イ

問七 イ

問八 ただ人

問九 費長房、か

問十 i ロ ii ハ

問十一 めでたき世界

問十二 イ

問十三 11 にく 12 ほとん(ど) 13 つかさど(れ)

問十四 ロ・ハ

問十五 イ・ホ

問十六 ハ

■出題意図

〔一〕

人間の遊びの内実に焦点を当てることで、現代社会が抱える問題点を明確化した、西谷啓治の文章を出題した。人間が本来的に持つ「遊び」への欲求と合理的なメカニズム社会との矛盾を炙り出し、メカニズム社会における「レクリエーション」や「レジャー」の持つ問題点を明確化するもの。「遊び」、「レクリエーション」、「気散じ」、「レジャー」など、文中で用いられる用語の差異を明確に理解しながら論旨を的確に読み取れるかを測る。

〔二〕

中国古代の壺公と費長房の神仙譚を題材にした日本の説話(『曾我物語』に引用されたもの)と、その逸話を記述した漢文(書き下し文)の双方を出題した。和文・漢文それぞれの内容を正確に把握する力、互いの共通点と相違点を的確に読み取る力、さらに『曾我物語』にこの説話が引用される文脈上の意味を読み取る力などを測りながら、古典に対する興味や意識の高さを確認する。

成城大学 2025 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 6 日：国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。2025 A 入試
模範解答

〔一〕

問一 ア あらわ (された) ウ きまじめ

問二 イ 徹頭徹尾 エ 拒絶 オ 含有 カ 準拠

問三 ニ

問四 ハ

問五 ハ

問六 B イ C ホ D ロ

問七 (解答例) 馬の耳・念仏

問八 ニ

問九 イ

問十 ロ

問十一 (解答例) レトリックの工夫が文法の国境や諸言語のコードを越えていること (30 字)

問十二 ハ・ホ

〔二〕

問一 ア 通過儀礼 ウ 畏敬 カ 繊維

問二 イ はた エ たずさ (える) オ え

問三 a ハ b イ c ハ d ニ

問四 道具が常に

問五 ハ

問六 (解答例) 人に飲み水を提供する (10 字)

問七 X ホ Y ハ

問八 大量生産の品

問九 イ

問十 (解答例) 実際に使用され、持ち主の手になじんでいく (20 字)

問十一 ニ

■出題意図

〔一〕

言語におけるレトリック（修辞的表現）の本質について論じた佐藤信夫の文章を出題した。各言語に独特なものと考えられてきたレトリックが、実は諸言語に共通する、文法を超えた普遍性を持つものであるという本文の論旨を的確に把握できているか否かを測ると共に、本文の内容を発展的に捉え、考える力を見る。

〔二〕

道具とそれを使用する人間との結びつきという観点から人間と自然との関係について考察する、池澤夏樹の文章を出題した。かつて人間は道具を媒介として自然と結びついており、従って人間と道具との距離は人間と自然との距離に等しいのだという著者の発想と、そうした発想に沿って説明される現代に対する著者の違和感を文脈に沿って理解できたかを測る。

成城大学 2025 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 7 日：国語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔一〕

問一 ア 真相 イ きょうあい ウ 謎

問二 精神感応

問三 ホ

問四 ニ

問五 人間精神の

問六 イ

問七 (解答例) 記憶自体ではなく、それを呼び起こすメカニズムの損傷なので、記憶(精神)の現象と脳(身体)の現象は対応しないことになる(58 字)

問八 ハ

問九 イ

問十 ロ

〔二〕

問一 ア かな(でる) イ しちゅう ウ ぼうだい

問二 エ 緊張 オ 提唱 カ 指標

問三 (解答例) 先行する直近の出来事を理由として選ぶ(18 字)(という傾向と)出来事や行為の原因を内的な要因に求める(19 字)(という傾向。)

問四 つまり私たちは

問五 ロ

問六 ニ

問七 b

問八 i ロ ii イ iii ロ

問九 ハ・ヘ

問十 iv イ v ロ vi ロ

問十一ロ・ト

■出題意図

〔一〕

超自然現象に対する知識人の冷笑的態度を取り上げ、近代科学の合理的経験の狭隘さを批評する、小林秀雄の講義（1974年の講義を文章化したもの）を出題した。人間の精神の働きは、個別・具体的な経験を観察・実験によって計量可能とみなす近代科学の合理的経験では捉え切れないことを、ベルグソンの失語症研究を引用しつつ結論付ける小林の論理と意図を明確に読解できるかを測る。

〔二〕

身の回りで何らかの出来事が起こると、直近に存在している「もっともらしい理由」を探してしまいがちな傾向について、その傾向の内実を詳細に説明した、村山綾の文章を出題した。「原因帰属」、「内的帰属」、「外的帰属」などの用語を用いて説明される本文の内容を、具体的な事柄を想起しながら的確に読み取ることができるかを測る。